

## Ⅱ ヘルンゆかりの人々・ゆかりの地

平成二十五年度ラフカディオ・ハーン顕彰事業

### 『ハーンとギリシヤ』（熊本）の報告

平成二十五年（二〇一三）十一月十日、熊本でラフカディオ・ハーン（小泉八雲）顕彰事業が行われた。会場はハーンがかつて明治二十四年十一月から二十七年十月までの三年間教鞭を執っていた旧制第五高等学校の本館に隣接する化学実験場・階段教室（国指定重要文化財）であった。テーマは「ハーンとギリシヤ（ギリシヤへの誘い（西洋から東洋へ）」、サブタイトルは「オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン」であった。これは同時に第五十五回熊本県芸術文化祭参加事業として当地公益信託の文化スポーツ基金からの助成支援を受けたものであり、四〇頁（B5版）の予稿集（資

料集）を作成した。加えて在日ギリシヤ大使館と熊本大学等の後援をいただけたことは励みとなった。

本年度二〇一四年はハーン没後一一〇年の記念すべき年である。それゆえに地球規模でハーン顕彰を行いつつもその現代性を考える良い機会である。そしてこの七月にハーンにおける始原（生誕）の地、ギリシヤのレフカダ島でハーン国際シンポジウムが開かれる。この度の熊本での催しはこれを支援すべく可能な限り多くの人にギリシヤに行ってもらいたいという願いを込めてのことであった。

基調講演の講師は小泉凡先生であった。スライドを用いて

西<sup>にし</sup>川<sup>かわ</sup>盛<sup>もり</sup>雄<sup>お</sup>

ギリシャとハーンの関わりと、レフカダ島についての懇切丁寧な説明があった。全体のキーワードは〈オーブン・マインド〉である。特にその地球規模での実績として第一回の二〇〇九年十月のアテネのアメリカン・カレッヂでの造形美術展（「オーブン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン」）から始まり、第二回は松江城天守閣と八雲記念館、第三回はニューヨークの日本クラブ、第四回はニューオーリンズのチュールレーン大学図書館で実施したことの説明・紹介があった。

小泉凡先生は、これらが成功裏に継承されてきたのは「オーブン・マインド」によってであり、この心はずでに「古代ギリシャ人の人間性」の中に見られ、ハーンの心を解く鍵として「ハーンの精神性の根幹は母国ギリシャの多神教世界を母に重ねて憧憬することによって形成された」と述べておられる。講演の中で祥子夫人も飛び入りでギリシャ（レフカダ）の話をして下さったことも深く印象に残るものであった。

ハーンの母親ローザ・カシマチはギリシャのキシラ島で生まれ、幼いハーンを連れてアイルランドのダブリンに行くが結婚生活は破綻。その後ギリシャに帰り、最期はコルフ島で生を終えている。ハーンの母の面影は熊本を舞台にした作品「夏の日の夢」の中に出てくる。

レフカダ島のハーン生家は今も保存され、その前の通りは「八雲通り」と呼ばれている。近くには両親が結婚し、自らもギリシャ正教（オースドックス）の洗礼を受けた目の守護神パレスケヴィの瀟洒な教会がある。そしてレフカダの市庁舎

も新装成ってこの七月のハーン事業を迎えようとしていることである。その事業の中にはハーン作品の朗読に加えて熊本からは清和文楽の『雪おんな』の公演が予定されている。

小泉先生の講演に続いてこの日の後半は『怪談』の中の作品「雪おんな」の英語と日本語の対比朗読を行った。一つはハーン研究家のアラン・ローゼン氏（放送大学客員教授）による原文（英語）朗読ともう一つは熊本朗読研究会々員で元アナウンサーの矢部絹子氏による翻訳文（平井呈一訳の日本語）の朗読である。両朗読とも心に染みるもので確かに「ことばの力」を実感させるものであった。

興味深いことに、この日の来聴者に用意した予稿集の中で、ローゼン氏によるエッセー「『雪おんな』を声に出して読むということ」の中で、ハーンその人は作品を「けっして声に出してよまないでくれ」といい、「目にだけ訴える文体というものがある。それは声に出して読めば効果が失われる。私の文体とはそういうものだ」と書いている旨紹介しておられる。しかしローゼン氏は文体を読み方に替えて読んで読む決心をなさる。読む（音声化する）以上は「同じ台詞でも読み方によっては違った効果を生み出すことになる」ことを前提に、ローゼン氏は、「つまるところ何と言っても大切なことはこのことだ―あなたがどのような読みを好しとするかだ。それこそがきつとハーンもまた好しとする読みになるのだ。」という思いをもって自分の読みをなさったのである。

参加者はハーンに関心のある熊本アイルランド協会々員、熊

本八雲会々員、それに一般の人々も加えて約六十名で、明治二十年代の階段教室の雰囲気を堪能しながら有意義な時を過ごすことができた。

この七月にはギリシャ（レフカダ）を舞台に没後一一〇年

記念のハーン国際シンポジウムと関連事業が行われる。レフカダ市長の全面協力の書面も届いている。万事成功裏に事が運ぶことを願うばかりである。

（熊本八雲会々長）